

**地域と連携し、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指して
～よのなか科の授業を通して～**

富士河口湖町立河口湖北中学校

1. 目的・経緯

「よのなか科」は、民間で初の校長、藤原和博氏が提唱する新しい形の授業。正解がないとされる課題に対し、「納得解」を考え、これからの時代を生きるために必要とされる「情報編集力」(身につけた知識や技術を組み合わせ「納得解」を導き出す力)を身につけることを目的としている。授業の特徴は生徒達の話し合いの中に大人が参加するところにある。この中から、生徒達は新しい視点を持つことが出来、話し合いを繰り返していく中で自らの意見を発信する力を身につけると同時に、「思考力」「判断力」「表現力」を養うことができる。

本校は、令和6年度に県の指定を受け、1学期に「よのなか科の授業」を7回実施した。各回の授業では、地域をはじめ、県内各地より参加者を募り、生徒と共に話し合いに参加してもらった。今年度は、対象の学年を全校生徒に拡大し継続して実施している。

2. 内容

《令和6年度》

5月29日(水)	1年	オリエンテーションとコミュニケーションの練習
6月 7日(金)	1年	きみたちはどういう時代に生きるのか AIロボット時代になくなる仕事
6月12日(水)	1年	稼げる大人になるにはどうしたらいいか?～時給の比較
6月21日(金)	1年	人生のエネルギーカーブを描いてみよう 自分の人生をプレゼンする
6月26日(水)	1年	ハンバーガー店の店長になってみよう
7月 1日(月)	1年	世の中にはどんな仕事があるのか? 13歳のハローワークマップより
7月 8日(月)	1年	商売繁盛の方程式を作ろう

→全7回を藤原和博氏が授業者として実施し、各回地域の方などに参加者として協力をいただいた。

《令和7年度》

6月12日(水)	1年	自分と相手の共通点探し
6月18日(水)	1年	きみたちはどういう時代を生きるのか
6月25日(水)	1年	人生のエネルギーカーブを描いてみよう 自分の人生をプレゼンする
7月 2日(水)	1年	稼げる大人になるにはどうしたらいいか
10月 9日(木)	1年	ハンバーガー店の店長になってみよう
10月14日(火)	2年 3年	自殺抑止ロールプレイと自殺の是非のディベート 一票を投じるの意味
11月 6日(木)	1年 2年 3年	世の中にはどんな仕事があるか 少子化問題を考える 安楽死問題を考える
11月17日(月)	1年 2年 3年	商売繁盛の方程式を作ろう 赤ちゃんポスト問題から、命について考える まちづくりのアイデアを提言しよう



→今年度は、本校の職員が主に授業者を務めた。(一部、都留高でよのなか科を担当している松田先生にお願いした)また、参加者には地域の方に加え、授業の内容によっては役場の職員の方にも参加者として協力をいただいた。

3. 成果と課題

地域の大人達が話し合いに参加し、その方々が生徒の考えを引き出す、またその考えは否定されないということから、生徒の安心感に繋がり、それが結果として生徒達に新しい視点を持たせるとともに関わりを深めていくことにも繋がったと考えられる。よのなか科の授業は生徒の思考力・判断力・表現力を高めるためには、一定の成果が感じられる。そのため、よのなか科の授業だけで終わらず、その手法を教師側が普通の授業にも取り入れていくことが重要と考える。